

みずみどり

1999年3月15日 第11号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
ホームページ <http://www1.odn.ne.jp/~caa98300/itabashi.html>

〒173-8501 板橋区板橋2-66-1 TEL 03-3579-2598

板橋区環境保全課内 FAX 03-3579-2589

夢は大きい方がいい

いたばし水と緑の会のこれからを考える講演会

市民ネットワークのしくみづくり

グラウンドワーク三島からの報告

平成9年4月、板橋区の自然保護団体と個人が集まって、パートナーシップによる自然の回復を目指し、いたばし水と緑の会ができて3年目を迎えました。

年齢や考え方の違う市民が協力して会を運営し、会員同士ばかりでなく、行政や多くの市民とよい関係をつくっていくための私たちの将来像を考えてみてはどうでしょう。

グラウンドワーク三島実行委員会は、富士の湧水が豊かな水の都三島で、水辺自然環境の再生を目的として、市民、行政、企業が集まって設立され、市民参加による地域に根ざした活動をしています。私たちのために板橋区まで来ていただきお話ししていただきます。会員でない方も、どうぞ。

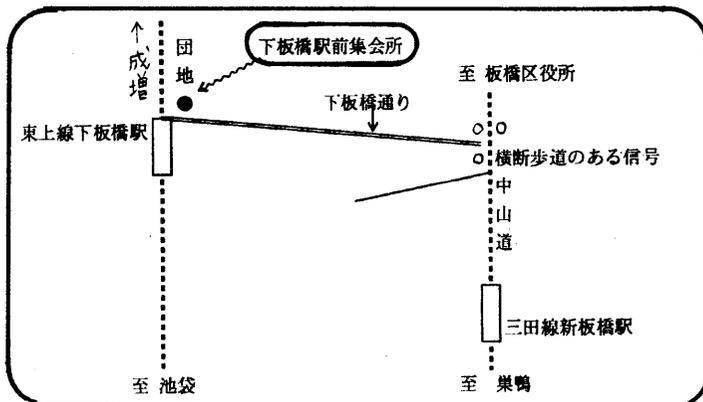
日時：4月29日（木）午後1時30分から3時

会場：下板橋駅前集会所

テーマ：市民ネットワークのしくみづくり

講師：グラウンドワーク三島実行委員会 小松 幸子さん

連絡先：坂本（3579）2598



引きつづき総会があります

午後3時から4時、会場は同じです。

議題：平成10年度報告、平成11年度活動計画、他

活動許可が出ました<要望書の回答のあらまし>

小松 容子

昨年、東京都東部公園緑地事務所に公園管理に提出した要望書について、2月18日に、東京都と2回目の話し合いを行いました。管理課長の森田さん、同課の北条さん、赤塚公園管理所所長の川田さん、会から釣巻さん、坂本さん、小松の3人が出席しました。今後、赤塚公園管理所所長と相談しながら具体的に進めていくことになりました。会からは確認した内容を、書面にして引き継いでほしいとお願いし、また、都から、赤塚の森とニリンソウで、都に対する要望内容が違うので、会内部の調整が必要とのこと。東京都の回答は次のとおりです。

要望(1) どのような林にするのか計画をたてて管理してほしい。

回答 平成8年3月および12月にまとめられた赤塚公園の段丘崖植物多様性基礎調査(委託)およびそれと並行して造園職員で検討した記録がある。今後斜面林の剪定、下草刈りは行わず、自然のままにする。ただし、民有地に接するところは、剪定や下草刈りを行う。赤塚公園の管理については、管理記録を残し、継承する。

要望(2) 改修工事等計画の情報公開を行い、住民が意見を述べる場を設けてほしい。

回答 公園計画区域、用地買収計画など、公園計画については赤塚公園管理所を通じて情報を提供する。また、昨年冬に行われた斜面の下草刈りなども事前に赤塚公園管理所より連絡する。

要望(3) 具体的な意見・提案

①斜面林に人が入り林床が荒れているので、会で林に入らないような保護柵を作り保全したい。
回答 斜面は、「立ち入り禁止」看板による強い立ち入り禁止でなく、柵など緩やかな方法が好ましい。会の保全活動を認める。

②城址広場の一部に、保護柵により人の利用する場所と区別し、草を刈らずにおいて生物の生息環境を確保したい。

回答 斜面林の縁に草地を残してもよい。計画を立てて東京都の了解を得ること。

ただし、①、②については、一般利用者へのPRが不可欠なので、設置する前から主旨の説明看板を数カ所立てること、トラロープなどでなく、景観的にも耐えられる柵にすること、作業は腕章をして行うこと、史跡なので教育委員会に許可をとること。

③乗蓮寺隣の都立公園は、ホテルの水路や、会がつくった水辺の水源となる湧水の重要な涵養域なので、人工的な公園でなく雨が浸透する腐植土等の自然の地盤にしてほしい。



斜面の保護と草地をつくる場所

回答 整備したばかりなのですぐに対応できない。斜面を土砂が流れ、下の住宅から苦情が出ているので、一部芝などにすることを検討している。

④乗蓮寺下の駐車場（公園用地）に水が湧いているが、都区が協力して板橋区が進めている自然の水辺づくりの水源に利用したい。

回答 公園と道路、あるいは都区が複雑にからみ、現状ではむずかしい。

⑤市民が自生種の種を育てて植える自然の森づ

くりができないか。

回答 公園の拡張計画はあるが、参加については今後話し合っていく。

会としても、勉強会や他の地域の見学等を行いながら、赤塚の森をどうするか話し合いを重ねて行く必要があります。また、賛同者を増やしていくためには、初めての人も参加しやすいように、会の運営方法も検討する必要があります。

林を守り生き物たちの草地をつくる活動のスタートへ

坂本 郁子

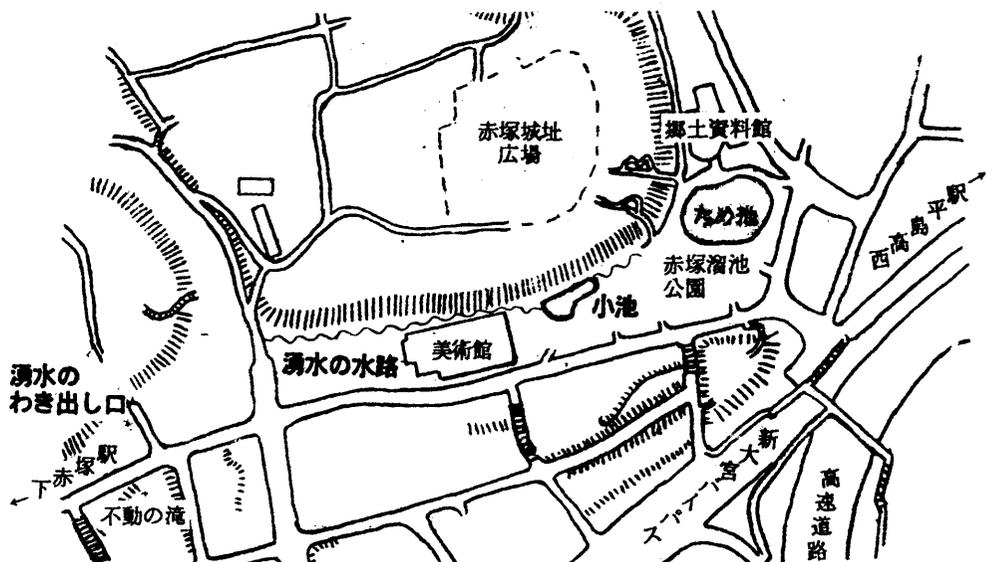
林の縁に草地を残し、林を守るための保全柵を作ることについての都の許可ができました。広場から見て、溜池からの山道と美術館裏山のフェンスの間の40mは保護柵がないので、ここから手をつけることとなります。柵ができればその内側にススキなどの草が生え、木が自然のままに枝を伸ばすことができます。また、擬木柵と林の間も一部人が入らないための保護柵を作ります。この斜面林は、4月には完成するはずの生き物の水辺の後背地になり、水辺～斜面林

～草地がつながった自然になります。

さっそく有志で公園の剪定枝から柵に使えるような枝を選び分けました。

赤塚公園管理所所長によると、城趾の広場は草丈が20cm位でも苦情がくるとかで、年に4回程草刈りをしています。いかに自然が嫌われているか（または嫌う人の声が大きいか？）を改めて感じました。

「生物の生息環境である森を守る」PRと、みんなが参加できるような方法を考えましょう。



笹目橋緑地自然回復事業検討会

かがみ りょう

2月9日 荒川下流工事事務所(以下荒下)で笹目橋緑地についての検討会がおこなわれました。荒下の事業計画課(田畑、木屋路)、板橋区みどり公園課(柏原、尾崎)、戸田市建設部土木課(石塚、小原)、いたばし水と緑の会(栗林、かがみ)が出席しました。(敬称略)

はじめに田畑さんより市民案と自然地創出管理に関する検討資料を配布し、私から事業のこれまでの内容、特に市民参加による流れを説明しました。次に田畑さんから、次のような説明と区、市の占用についての意向を尋ねました。

- ・平成11年度に工事を行う予定であるが、板橋区または戸田市が占用することが条件である。
- ・市民団体が占用することは考えていない。

占用に対する考えとして区、市は次のような意見でした。

戸田市:今のところ占用することは考えていないが、正式に占用するとかしないとかの返事するのは時間がかかるだろう。

板橋区:今すぐ占用することは考えていない。将来的には(将来像の地区計画に入っているので)占用することは考えている。占用するには議会の承認が必要だと思う。

正式に返事をなるべく早くだしてもらいたいと荒下から区、市へ要請した。

占用後区が心配している維持管理の話について、水と緑の会として次のように言いました。

- ・様々な調査や観察会、維持管理も必要であり、基本的に無償では難しいが、予算が無ければ何もできないというものでもない。予算が無くてもある程度のことは市民参加でできる。維持管理を心配せず、占用してほしい。

話し合いの後、荒下の田畑さんと話し、期限の迫っている「河川整備基金」の助成申請をすることとし、水と緑の会も資金を得るように来年度の計画を立て、赤塚マップづくりに集まっていた坂本さん、小松さん、釣巻さん、鈴木さんらの了解を得て申請しました。

申請の概要は次のとおりです。これは助成金がついての計画であり、つかない場合は見なおす必要があると思います。しかし概略的には同じような計画でいいのではないかと思っています。助成金がついた場合も計画の見なおしをすることは可能です。

計画の概要

【平成11年度の活動の目的】

平成11年度の市民案をもとに、自然回復工事が行われる予定であるが、市民が河川の自然を理解し、親しみのあるものとしていくために、工事への市民参加も必要である。これは、工事後市民参加で維持管理をしていくためにも必要とされることである。また自然地としてよくなったのかどうか判断していくためにも、工事前の自然状況がどうだったかという調査内容も必要である。そしてこの工事への市民参加を、自然回復への市民参加をより広く市民に呼びかけていく機会としたい。

【観察会と調査記録作成】

保全すべき草地と水路、実験池、干潟などにおいて、植物、動物の観察会と調査を行い、その記録から植生図や動物の分布図を作成する。

【帰化植物の管理】

オオブタクサ、セイタカアワダチソウなどの帰化植物は、その分布を記録するとともに、よりよい自然地となるよう、草抜き、刈り取りなどの管理を行う。

【クリーンアップ】

これまではクリーンエイドなどで、ある一

定時間内のクリーンアップを行っているが、一定範囲のゴミをすべて収集することを目標にクリーンアップを行う。

【講座の開催】

これからどのような自然を回復しようとしているのか、荒川の自然と目標とする自然について、また市民参加の自然回復事業についての講座を開く。

【工事への市民参加】

建設省による工事に市民参加による工事を組み込んでもらう。

工事の内容は、池堀形状の仕上げや、表土を戻しながらの最終の仕上げ工事。加えて、生き物の生息に配慮しながらの水路の浚渫を行う。

【市民参加の呼びかけ】

チラシやニュースを作成し、様々な機会を利用して笹目橋緑地の自然回復への参加を呼びかける。

【活動記録集の作成】

これまでの活動の記録に平成11年度の活動記録を加えて記録集を作成する。

申請事業の経費概算は、講師謝礼、工具代、資料作成費、車両レンタル、看板制作費、記録・編集費、印刷・製本費、発送費などで333万

としました。

審査結果は5月にでます。

第1回ヤゴネットこども環境会議の報告

ヤゴネット事務局 かがみ りょう

1月17日に行ったヤゴネットこども環境会議は参加者いるかなーという当初の予想を裏切つて、最後は参加申し込みを制限するしまつて、14団体の発表と21団体の参加、計150人の参加者となりました。回復団のこどもは、朴人と由季ちゃんとお友達2人計4人が参加しました。

持って来てくれた壁新聞を見、話を聞くとほんとに流域の活動は様々でなかなか見ごたえがありました。(全部を見ることなんて無理でした)

午後はインターネット体験、自然観察、ネイチャーゲームを行いました。自然観察では栗林さんら野鳥クラブにお世話になりました。どれもとても好評でした。

その後旗上げゲーム方式でみんなの意見、考えを聞きました。「荒川はだれのもの？」の質問では、人、生き物、の答えの他、「誰のものでもない！人も他の生き物も含めたみんなのものだ！」という意見がでたり、寄居から参加したこどもからは、「ここが同じ荒川だとは思えない。においもくさいのに驚いた。もっと自然のある川にしてほしい。」と発言があった。

これからはホームページでもおしゃべりしましょう！<http://www.ara.or.jp/yago>です。

ス ケ ジ ュ ー ル

作業項目/月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
観察会と調査記録作成		●		●							●	
帰化植物の管理	●			●								
クリーンアップ					●							
講座の開催	●											
工事への市民参加								—————				
市民参加の呼びかけ	●	●		●		●		●		●		●
活動記録集の作成											—————	

撮影:河村信二

第1回ヤゴネットこども環境会議の様子



第2回 いたばし

ボランティア広場

江戸 きよみ・眞崎 美和子

いたばし水と緑の会では、テーマ別活動紹介広場（大原社会教育会館 2階・第1会議室）に参加します。

荒川自然回復団・赤塚の森ボランティアそれぞれの活動内容をパネル展示等で紹介します。

また、他のボランティアの人と障害者と一緒に行うウォークラリーも行われます。大原社会教育会館を出発して上板橋の平和公園へ行き、みんなで協力して現地でバーベキューなどをしながら交流を深めます。

日頃の活動をみんなにもっと知ってもらいたい人、他のボランティアの人と交流したい人、バーベキューに参加したい人等、ぜひボランティア広場に足を運んでください。会の名札も忘れずに。

会場に来られたら水と緑の会のコーナーに江戸・眞崎がいますので、立ち寄って腕章を受け取ってください。できたてのすてきな自然観察マップ「赤塚城址の森を歩く」がもらえます。

日時：3月22日（月） 10時～16時
場所：大原社会教育会館（板橋区大原5-18）

- ①都営三田線「本連沼」駅A3出口徒歩5分
- ②バス（高島平または高島平操車場または赤羽駅～池袋駅行）「連沼」または「小豆沢」下車徒歩5分
- ③バス（常盤台駅～赤羽駅）「志村1丁目」下車徒歩7分

問合：眞崎 3550-7918 または江戸 3956-1771

コーナー	時間	内容
映画とシンポジウムの広場	10時～12時	映画 「金色のクジラ」・「火垂の墓」
	12時30分～16時	シンポジウム 1部 未成年の主張 2部 世紀末を批判する 3部 ボランティア学習について
テーマ別活動紹介広場（いたばし水と緑の会）の出展コーナー）	10時～16時	福祉・環境・子育て・いのち、に関わる参加団体の活動紹介と体験交流
世界あちこちボランティア広場		国際協力NGO等の活動紹介 世界のボランティア事情紹介
1999年ボランティア学習ガイド広場		平成10年度実施予定のボランティア学習関係事業等の紹介、相談・喫茶コーナー
あと2年 2001年『国際ボランティア年』広場		ステージを使ったアジア舞踊や参加団体の活動を披露
地域を支えるコミュニティ活動の広場		コミュニティ活動の紹介
学校ボランティア・福祉教育の広場		学校でのボランティア活動や福祉教育の紹介と交流
趣味と特技を活かしたボランティア活動広場		趣味や特技を活かした活動の紹介
一日ボランティア体験広場		野外での活動紹介、車いす体験 起震車コーナー（午前中）
食べてボランティアする広場		焼きそばやアジアのお菓子
ウォークラリー	11時～15時	大原公園から平和公園まで歩き、野外料理を楽しむ（参加費500円）

赤塚にツバメが多いのはなぜ？

高野 十太郎

まもなくツバメが渡って来る頃になりました。ツバメは家の軒先、ビルの奥まった壁面などに泥と草をだ液で固めておわんのような巣を作ります。その中で卵を産み、ヒナを育てます。卵が生まれ、ヒナにかえり、成長して巣立つまで約40日かかります。エサには飛んでいる昆虫を捕らえます。稲の害虫を食べるので益鳥（役に立つ鳥）だと親しまれてきました。何よりも、そのかわいらしい子育ての様子が容易に観察できる一番身近な鳥です。区内でもよく見られましたが、最近では少なくなりました。

去年7月始め、赤塚中央通りの赤塚七丁目、前谷津川緑道が接するあたりで、巣立ちしたばかりのツバメが11羽、2つの群れになって電線に並んで止まり、親からエサをもらうのを待っていました。それぞれ親が来ると黄色いくちばしを大きく開けてエサをせがんでいました。気をつけて周りを見ますと何軒かの店の軒にいくつかの巣があり、まだそこは巣立ち間近のヒナが入っていました。久しぶりに見た懐かしい光景でした。

この辺りにツバメがこんなにたくさん生息しているのは、住民の方の優しい配慮もあります。加えるに400m程東に水車公園があり、小さな水田があります。そこで巣材が得られるからではないかと思ひ当りました。そのことを自然回復ボランティア講座第1回目の時、講師の藤本先生に質問しましたら、先生も同じ意見でし

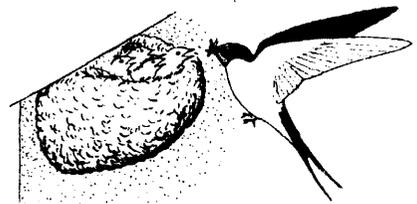
て、「このつぎの巣作りの時には、もっと質の良い粘土とそれにわらくずも添えて」「粘土なら美術館下の池の作業の時、出るかも」と話が盛り上がり、同席された方々に笑われました。

無事、巣立ちしたツバメはやがて河川敷などのアシ原に移り、そこをねぐらとして秋の渡りに備え、体力を貯えます。赤塚地区には昆虫公園、水車公園、植物園、美術館、郷土資料館などのほか、たくさんの寺社旧跡があります。初夏の頃、それらをお訪ねの際には中央通り七丁目まで足を伸ばされ、ツバメの子育てを見られるのも一興と存じます。

ツバメは住宅難！

巣材（土、わらくず）の不足

ツルツルの新しい建物には巣をかけにくい



『ニリンソウ』自生地パトロールと自生地観察会の案内役に参加しませんか？

区の花ニリンソウを保存する会

「今年は東京都公園協会主催で、ニリンソウの花見の会を赤塚公園の行事として行い、できれば今後も定着させたい」と、「保存する会」に当局より申し入れがあり、会としては自主的にしていた事業の延長線と考えられますので、引き受けることにしました。

行事の内容

花の最盛期が4月第一日曜日『4日』か第二日曜日『11日』のどちらかになります。

①「パトロールセンター」の設置

②「パトロール活動」

リーフレット・パンフの配布と自生地内の立入禁止、盗掘を防ぐためと自生地の案内をする活動

③「自生地周辺自然を語る写真展」パネル展示

④「ニリンソウ自生地自然観察会」

“公園協会”は、センター用のテント・テーブル・イス・リーフレット・パンフ・パネルの貸出しと作成、“保存する会”は、運営などに責任を持つこと、になりました。現在、数人の会員で準備を進めています。行事当日前にリハールをする必要が生まれましたので、下記にしがって行います。花見をする側から、花見

を紹介する側に積極的に参加していただけないでしょうか？お待ちしております。

日時：3月28日（日）10時～ 雨天決行

集合場所：赤塚公園大門地区ニリンソウ観察台

連絡先：区の花ニリンソウを保存する会

事務所 香取 3930-2263

3月下旬は美術館前の池づくりに引き続いての作業になります。さらに4/3～4/11にかけて自生地パトロールが連日行われますので、ほぼ一月間の休日がこれらの行事にあてられることとなりますので、大変ご苦勞をおかけすることと思います。ただし、思いもかけない楽しいことにぶつかることもあります。『自生地』からの贈り物も毎年ありますよ？。

「ニリンソウ」は前年より少し遅れています。平年より早目かと予想しています。自生地をよく観察すると、萌芽したニリンソウの葉を見ることが出来ます。全体に萌芽が進んでいますので、もう2月末で自生地内の立ち入りはできなくなりました。

今年は演歌『二輪草』が話題を豊かにしてくれそうです。

遠い昔の暮らしと自然 (2)子供たちで掘った井戸

矢田 茂

手伝いで一番困るのは畑の水まき。この仕事を早く終えるには、川から運ぶ水を近くで調達するしかない。子供たちで考えた知恵は、畑の

すみに仲間が使う井戸を作ることである。話はすぐにまとまり、少し掘れば水の出そうな場所をきめ、大人が作った井戸を見て回る。すると

酒樽の上と下を抜いて、積み重ねた井戸を見つけた。

しかし酒樽はただではない。底を抜くのも大変なことで、ほかに適当な材料を探していると、工事場に捨てられた釘の空樽があった。その樽を拾っていると、現場の怖そうな監督が顔に似合わない優しい声で、「それで何を作るんや」と聞き、私たちが「この釘樽で畑に井戸を作りたいんや」と言うと、監督は私たちができるやり方を教えてくれた。

当時は子供を乱暴に扱う時もあるが、子供がなにかする時は、大人はあたたかく助けて、様々な知恵をつけてくれた。

その釘樽は重い樽運びやすいように、形はビヤ樽に似て真ん中がふくれている。テープのようなうすい帯金で両端と真ん中を止めた木製の樽。監督に教えられた通り、樽の一両端の帯金をはずして底を抜くと、円すいになる。それをふせ、じょれんで底砂をすくいあげ、空き樽

をゆすりこむようにして埋め込み、また帯金をはずした樽をかぶせ埋め込む。三段ほど埋めこんだ時、底から意外に早く水が湧いてきた。これは現在、大きな土木工事でも行われている、潜函やケーソンの工法に近く、意外に面白い工法のルーツでなかろうか。

目の前に水が湧いてくる井戸は、たまるまで遊べる水時計。しかし、この喜びも婆のどなり声で吹っ飛ぶ。「こら、お前ら、こんなとこに井戸作って、人が落ちたらどうするんや。井戸囲いかわりにもう一段埋め込んで、地面から一尺ほど上げておけ」その後でニコニコと、「そやけどお前たち、ええもん作ったなあ。これからはおれもこの井戸から水くむわ」と聞き、どなられたり喜ばれたり、子供同士は大笑い。

自然の野山で遊んで会得した知恵、子供でも勝手に井戸が掘れた時代、これは私たちがなくした暮らしの尊い文化に思えてならない。

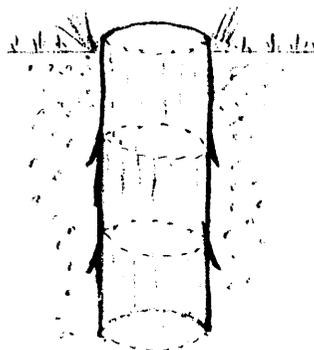
釘樽（喫茶店の前で見るコーヒーの空き樽は釘樽と同じ）



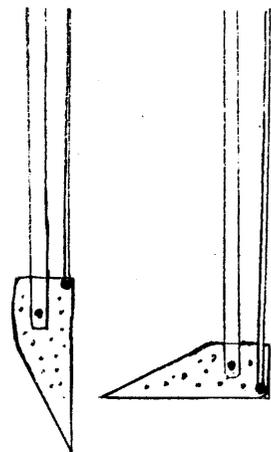
一番下の帯がねをはずすとこのような円すい形になる



井戸の出来上がり



井戸さらえ用じょれん 差し込むとき 掘り上げる時



市民がつくり、市民が守る 生き物の水辺 in 赤塚溜池公園

<できたあとのこと>

完成後自然の池は、環境保全課といたばし水と緑の会赤塚の森ボランティアが中心になって、この池と周辺の自然を守る活動の輪を広げていきます。地域の学校も参加できればと期待しています。

都立公園内の城址広場の保護柵づくりと一体となった保全活動ができるようになります。

自然調査や、オープンな観察会を行い、やってきた昆虫や自然に生えてきた植物や、湧水量などを掲示板で紹介したり、観賞魚（金魚）コイなどが放されたり、ザリガニが増えすぎたり、人が入って草が生えなくなったなど、自然の環境が損なわれたときは、みんなで必要な修復作業を行ったり、PRしたりする活動がありそうです。

キジの溜めふん

栗林 菊夫

2月21日、板橋荒川河川敷で行った、いたばし野鳥クラブ主催のバンディング見学会の時、講師の梶田さんにとってもおもしろい現象を教えてくださいました。キジの溜めふんです。写真を見ておわかりのように、アシの間にまとまってふんがされており、これが、「キジの溜めふん!!」。初めて見知ること、これまで聞いたこともなくて感心……すること……しきり。キジがこんなこともするのか……。これを知っただけでもバンディングを行った意味があったと、とてもおもしろかったです。



写真：高野 十太郎

ハンノキを探してください!

ハンノキ、湿地を好む目立たない木である。西台1-7、雑木の斜面の上に二本だけ生えている。今は暗渠となってしまった蓮根川の形見である。ここは環状8号の工事予定地内にあたる。少し下流の若木3-25にも一本あったが、去年切られてしまった。他には白子川沿い、三園1-23の成増橋の少し下にも2,3本ある。以上、私が98年に板橋区内で見たハンノキの全てである。白子川沿いでまだ見つかると思うが、絶滅の一手前だろう。いつの間にか切られてしまった、なんて事にならないよう対策を考えたい。皆さんの情報、対策案など編集部にお寄せください。(釣巻岳人 記)

冬に実が目立つ



活 動 の お 知 ら せ

定例会は毎月第一木曜日です。4月1日は産文ホール第4会議室(4階)、5月6日産文ホール第5会議室(5階)(食事持ち込みも可)どなたでも参加できます。

荒川自然回復団

●板橋・荒川河川敷野鳥調査観察会

日 時：4月12日(月) 9時30分

集 合：三田線西高島平駅改札口

持ち物：弁当、飲み物、双眼鏡、図鑑、帽子

その他

参加費：200円

主 催：いたばし野鳥クラブ

連絡先：栗林(3959) 2072

●板橋・荒川河川敷野鳥調査観察会

日 時：5月8日(土) 9時30分

集 合：埼京線浮間舟渡駅改札口

持ち物：弁当、飲み物、双眼鏡、図鑑、帽子

その他

参加費：200円

主 催：いたばし野鳥クラブ

連絡先：栗林(3959) 2072

●徳丸が原公園自然回復検討会

自然回復ボランティア活動講座終了者の自主活動として、徳丸が原公園の利用状況や生物などを調査しながら、自然回復を考えます。どなたでも参加できます。

日 時：4月7日(水) 18:30~20:30

場 所：産文ホール4階予備室

連絡先：環境保全課(3579) 2598

赤塚の森ボランティア

●世話人会

11年度の活動計画と公園の自然管理についてニリンソウを保存する会と話し合います。

日 時：4月24日(土) 10:00~12:00

場 所：赤塚5丁目集会所

連絡先：小松(3937) 8490

●柵づくり打ち合わせ

公園の剪定した枝を使って、斜面林と草地を保護するための柵をつくります。まずPR看板づくりからはじめます。柵づくりの作業は子供も参加できるイベントにしたいと思います。

日 時：4月24日(土) 13:30~15:30

場 所：板橋区立美術館前集台

連絡先：坂本(3579) 2598

●マップができました。

3月20日、日本財団の援助金で、すばらしい自然観察マップ「赤塚城址の森を歩く」ができました。早く見たい方はボランティアの広場会場へ(3月22日)。または事務局まで。

事 務 局 か ら

いたばし水と緑の会は4月から新しい年度になります。いたばし水と緑の会は、2ヶ月に1度(奇数月の15日頃)発行する会報「みず・みどり」をはじめ、会の運営はすべて会費でまかなわれています。会報は区の窓口にもありますが、ぜひ会員になって会を支えてください。

11年度の会費は2000円です。郵便振替00170-8-352508。カンパ大歓迎。